

第21号

奈良 国立博物館 だより

平成9年 4・5・6月

特別展

奈良国立博物館の名宝 1世紀の軌跡

4月26日(土)～6月1日(日) 新館

休館日

4/28(月)、5/6(火)、5/12(月)、

5/19(月)、5/26(月)

平常展

「仏教美術の名品」

6月24日(火)～7月27日(日) 新館

月曜日休館

開館時間 9時～16時30分

(但し入館は16時まで)

金曜日は9時～20時まで

(但し入館は19時30分まで)

6月2日(火)～6月23日(月)は

陳列替のため全館休館

〔写真解説〕

国宝 十一面観音像

絹本着色 縦169.0cm 横90.0cm

平安時代

奈良時代のおもかけを残す十一面観音像で、きわめて強い肉身表現が特徴的である。截金文様や、銀泥彩や暈繡彩色を巧みに用いて莊嚴を施しており、優美な趣をたたえた平安仏画の名作である。近世、奈良法起寺に伝来した。

平成8年度新収品。



特別展「奈良国立博物館の名宝 —1世紀の軌跡—」

4月26日(土)～6月1日(日) 新館

開館102年目にして初めての館蔵名品展です。ただし単なる館蔵名品展ではありません。その内容の意外さにきっと驚かれることでしょう。

まず、文字通りの館蔵の名宝が勢ぞろいします。平成8年度の新収品を含む約200件の選り抜かれた館蔵品のうちには、当館での初公開品や、土偶・銅鐸など仏教美術中心の日頃の展示には出すことのないものも多く含まれています。

また、館蔵品ときわめて関連の深い館外の宝物も併せて出陳されます。たとえば、もとセットであった2基の大般若経厨子。現在1基は当館、もう1基はクリーブランド美術館(米国)の所蔵品です。その2基が再会します。他にも再会のドラマがいろいろと用意されています。

さらに、当館の初期の蒐集品である模造や模写が初めてまとめて公開されます。

今回の特別展は、奈良国立博物館の全貌を初めて公開するものです。奈良国立博物館の現在と過去、「原点」と「今」が、初めて明らかになります。御期待下さい。

(出陳総数238件。うち国宝12件・重要文化財85件。館外のもの42件、うち海外からの出陳3件。)



土 偶
〈山形県飽海郡遊佐町
杉沢遺跡出土〉
縄文時代(当館)

公開講座

5月3日(土)

①10:30～12:00

「奈良博 1世紀の蒐集」

愛知県立大学教授 河原由雄

②13:00～14:30

「うずもれた名宝 —奈良博の考古遺物—」 考古室長 井口喜晴

③14:40～16:10

「館蔵仏教工芸の諸相」

工芸室長 阪田宗彦

5月24日(土)

①10:30～12:00

「館蔵彫刻の問題点」

主任研究官 井上一稔

②13:00～14:30

「館蔵書跡の名宝 —最澄筆〈久隔帖〉を中心に—」

普及室長 西山 厚

③14:40～16:10

「絵画の名宝」

美術室長 梶谷亮治

会場：奈良国立博物館地下ホール

(本館と第1・2新館を結ぶ新しい地下通路の中央)

聴講無料



◎大般若経厨子
平安時代(当館)



山越阿弥陀図模写
〈横山大観筆〉
明治時代(当館)

ギャラリートーク

5月14日(水)午後2時～、新館陳列室にて、聴講自由。

「善円作木造十一面観音立像をめぐる」 美術室研究員 礪波恵昭

平常展「仏教美術の名品」 6月24日(火)～7月27日(日) 新館

当館は、わが国の仏教美術に関する多くの文化財を収蔵・保管しています。平常展ではそうした館蔵品・寄託品の中から、国宝・重要文化財を含む多数の仏教関係の優品を集めて展示します。

主な展示品

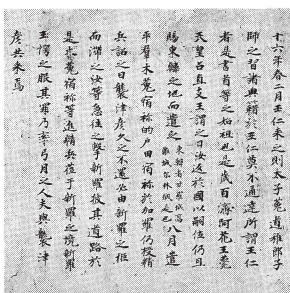
特別展「奈良国立博物館の名宝　―1世紀の軌跡―　4月26日(出)～6月1日(回)

【考古】土偶<山形県遊佐町杉沢遺跡出土>、銅鉾<愛媛県川之江市出土>、銅鉾<長崎県豊玉町黒島出土>、銅鐸<奈良市山町出土>、銅鐸<静岡県三ヶ日町出土>、北和城南古墳出土品、銅鏡<奈良県天神山古墳出土>、蒙古鉾形肩庇付冑<奈良県五条猫塚古墳出土>、忍冬唐草文鏡板<奈良県珠城山3号墳出土>、双鳳文杏葉<奈良県珠城山3号墳出土>、裝飾付器台付子持壺須恵器、人物線刻裝飾付子持壺須恵器、素弁蓮花文軒丸瓦<奈良市横井廃寺出土>、単弁蓮花文軒丸瓦<奈良県山田寺出土>、重弧文軒平瓦<奈良県山田寺出土>（奈良国立文化財研究所）、複弁蓮花文軒丸瓦<奈良県川原寺出土>、重弧文軒平瓦<奈良県川原寺出土>（奈良国立文化財研究所）、単弁蓮花文軒丸瓦<奈良市山村廃寺出土>、均正唐草文軒平瓦<奈良市山村廃寺出土>、複弁蓮花文軒丸瓦<福岡県天台寺跡出土>（九州歴史資料館）、扁行唐草文軒平瓦<福岡県天台寺跡出土>、複弁蓮花文軒丸瓦<奈良市東大寺出土>、均正唐草文軒平瓦<奈良市東大寺出土>、隅木蓋瓦<和歌山県上野廃寺出土>、如來坐像埴仏<三重県天華寺跡出土>、瓦塔<静岡県三ヶ日町出土>、◎佐井寺僧道葉墓出土品、◎山代忌寸真作墓誌、行基墓誌残欠、◎出雲荻杼古墓出土品、◎伝福岡県出土経塚遺物、粉河経塚遺物<和歌山県粉河町出土>、◎銅経筒・滑石製外筒<伝福岡県出土>、金銅宝幢形経筒、飛鳥文陶製外筒<伝愛媛県北条市出土>

【工芸】◎刺繍釈迦如來說法図、◎阿弥陀如來鏡像、蔵王権現鏡像、◎山王十社本地懸仏、十一面観音懸仏、春日神鹿舍利厨子、◎首懸駄都種子曼荼羅厨子、百万塔、◎蓮唐草蒔絵経箱、経帙、◎大般若経厨子、大般若経厨子（米国・クリーブランド美術館）、◎牛皮華鬘、牛皮華鬘、◎種子華鬘、菊牡丹文彩色華鬘、◎釣燈籠、王子形水瓶、王子形水瓶、王子形水瓶、仙蓋形水瓶、仙蓋形水瓶、布薩形水瓶、錫杖頭、錫杖頭、◎宝相華文如意、三鈷杵、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵、◎五鈷四大明王鈴、五鈷鈴、五鈷種子鈴、金剛盤、輪宝、羯磨、一面器、◎梵鐘、梵鐘

【彫刻】押出観音菩薩立像、◎押出阿弥陀三尊像、観音菩薩立像、観音菩薩立像、観音菩薩立像、塑造侍者坐像、◎薬師如來坐像、菩薩立像、◎十一面観音立像、◎薬師如來坐像、◎如意輪観音坐像、聖観音立像、◎兜跋毘沙門天立像、◎十一面観音立像、阿弥陀如來坐像、◎阿弥陀如來及兩脇侍坐像（保安寺）、地藏・龍樹菩薩坐像、不動明王立像、◎蔵王権現像、大將軍神坐像、◎持国天立像（耕三寺博物館）、◎増長天立像、◎多聞天立像、◎広目天立像（興福寺）、地藏菩薩立像（米国・アジアソサエティ）、十一面観音立像【写真】、文殊菩薩立像（東京国立博物館）、地藏菩薩立像、如意輪観音坐像、◎愛染明王坐像、◎釈迦如來立像、出山釈迦如來立像、裸形阿弥陀如來立像、大黒天像、舞楽面　崑崙八仙、舞楽面　二の舞腫面、◎獅子

【書跡】阿闍世王経巻下<五月一日経>、◎天平年間写経生日記（知恩院）、◎紫紙金字金光明最勝王経、紺紙銀字華嚴経<二月堂焼経>、◎紫紙金字華嚴経巻第七十、◎中阿含経巻第九<善光朱印経>、増壹阿含経巻第三十九<善光朱印経>、◎大般若経巻第一<魚養経>（薬師寺）、大般若経巻第九十六<魚養経>、◎灌頂随願往生経<石川年足願経>、瑜伽師地論巻第八十九<舍人国足願経>、大威徳陀羅尼経巻第八<法隆寺一切経>、法華経巻第六、紺紙金銀交書大般若経巻第四百六十<中尊寺経>、紺紙金字大般若経巻第三百四十五<神護寺経>、法華経巻第一、◎法華経<色紙>、◎紺紙金字一字宝塔法華経巻第三・五<心西願経>、◎紫紙金字金光明最勝王経巻第二残巻<後宇多天皇願経>、大毘盧舍那成仏神変加持経巻第四<消息経>、大般若経巻第四百十八<東大寺八幡経>、◎日本書紀巻第三残巻【写真】、◎筑前国嶋郡川辺里戸籍断簡、造仏所作物帳断簡<10行>（書芸文化院）、造仏所作物帳断簡<24行>、造仏所作物帳断簡<22行>、造仏所作物帳断簡<8行>（国立歴史民俗博物館）、◎東大寺開田図、神泉苑図、◎造東大寺司請経牒、◎弘福寺牒並大和国判、◎金剛般若集驗記、◎七大寺日記、◎雑筆集、◎類秘抄、◎門葉記<寺領目録>、◎伝教大師求法書等、◎弘法大師御勅文、◎弘法大師二十五箇条遺告、◎伝教大師筆尺牘<久隔帖>、◎金剛般若経開題残巻、◎慈門僧正懷紙、◎神護寺如法執行問答、◎兀庵普寧墨跡<与東巖慧安尺牘　庚午仲春>、◎清拙正澄墨跡<法語>



◎日本書紀卷第十残巻
平安時代（当館）

模造、黄金荘大刀<正倉院宝物>模造、黒作横刀<正倉院宝物>模造、金銀荘横刀<正倉院宝物>模造、金銅荘大刀<正倉院宝物>模造、金銅荘横刀<正倉院宝物>模造、絵唐櫃<正倉院宝物>模造、火舎<正倉院宝物>模造　森川杜園作、檜和琴<正倉院宝物>模造　森川杜園作、洞簫<正倉院宝物>模造、子日利箒<正倉院宝物>模造付粉地彩絵几　森川杜園作、子日手辛鋤<正倉院宝物>模造付粉地彩絵几　森川杜園作、文殊渡海図模写　菱田春草筆、吉祥天像厨子絵模写　岡倉秋水筆、釈迦如來像模写　天草神來筆、大元帥明王像模写　寺崎広業筆、北野天神縁起模写　寺崎広業筆、延年舞図模写　寺崎広業筆、准胝仏母像模写　山田敬中筆、聖徳太子二侍者像模写　和田貫水筆、山越阿弥陀図模写　横山大観筆、吉祥天立像模写　横山大観筆、◎本館模型・設計図・棟札、山水図　橋本雅邦筆、虎図　岸竹堂筆、牝牡鹿　森川杜園作、浮彫観音菩薩倚像　石川光明作、浮彫平治物語図　山田鬼斎作、第5回内国博覧会協賛「奈良県下国宝展」関係資料、委蛇録<森鷗外日記>大正10年3月～11年>（森鷗外記念館）、森鷗外書簡<大正7年11月>（森鷗外記念館）、森鷗外書簡<大正7年11月4日付>（森鷗外記念館）、森鷗外書簡<大正7年11月7日付>（森鷗外記念館）、森鷗外書簡<大正7年11月15日付>（森鷗外記念館）、森鷗外書簡<大正7年11月21日付>（森鷗外記念館）、森鷗外書簡<大正7年11月27日付>（森鷗外記念館）、草枕絵巻　松岡映丘ほか筆、博物館中央　杉本健吉筆（東京国立博物館）、仏頭　杉本健吉筆（杉本美術館）、博物館彫刻室　杉本健吉筆、博物館内<外人>　杉本健吉筆（杉本美術館）、金龍寺観音　杉本健吉筆（杉本美術館）、金龍寺観音　杉本健吉筆（杉本美術館）、阿修羅像　杉本健吉筆（愛知県美術館）、仏像<奈良博物館>　杉本健吉筆（杉本美術館）、仏像<奈良博物館>　杉本健吉筆（杉本美術館）、博物館絵画室　杉本健吉筆（杉本美術館）、聖堂祭具　久保田鼎監督・吉田包春図案・加藤寅二郎制作（日本聖公会奈良基督協会）

◎国宝、◎重要文化財。展示品は都合により一部変更する場合があります。



十一面観音立像<善門作>
鎌倉時代（当館）

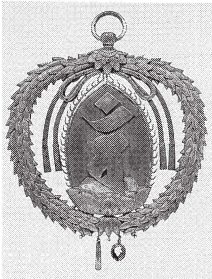
平常展「仏教美術の名品」　6月24日(火)～7月27日(回)

【彫刻】◎銅造誕生釈迦仏立像（正眼寺）、◎銅造誕生釈迦仏立像・灌仏盤（東大寺）、◎銅造薬師如來立像（般若寺）、◎木造阿弥陀如來坐像（安楽寿院）、木造大日如來坐像（元興寺町）、◎木造釈迦如來坐像（法隆寺）、木造阿弥陀如來立像【写真】、木造阿弥陀三尊像（峰定寺）、◎銅造弥勒菩薩半跏像（神野寺）、◎木造勢至菩薩立像<六観音のうち>（法隆寺）、◎木造菩薩立像（金竜寺）、◎木造十一面観音立像（松尾寺）、◎木造准胝観音立像（常盤山文庫）、◎木造馬頭観音立像（浄瑠璃寺）、◎木造地藏菩薩立像（東大寺）、◎木造地藏菩薩立像（春覚寺）、◎木造不動明王坐像（園城寺）、◎木造不動明王坐像（正寿院）、銅造不動明王立像（天ヶ瀬組）、◎木造十二神将立像（室生寺）、木造大黒天立像（西大寺）、◎木造重源上人坐像（浄土寺）、◎木造伎楽面（東大寺）、◎木造舞楽面（手向山神社）、◎木造飛天（興福寺）



◎矢田地蔵縁起<部分>（金剛山寺）

【書跡】紫紙金字法華経、不空罽索毘盧舍那大灌頂光真言<中尊寺経>、大智度論巻第四十七　<神護寺経>、大般若経巻第五百五十七（東大寺八幡経）、大般若経巻第四百二　<源豪一筆経>、叡山拜堂記、毗尼母経巻第五<足利尊氏願経>【写真】、版本大般若経巻第三百六十五（以上当館）



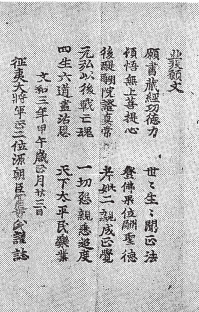
◎金銅種子華鬘
（当館）

◎金銅五鈷三昧耶鈴（金峯山寺）、金銅独鈷杵（当館）、金銅三鈷杵、金銅五鈷杵（当館）、◎銅罽口（長谷寺）、◎鉦鼓（東大寺）、◎鉦鼓（手向山八幡宮）、刺繍阿弥陀三尊來迎図（当館）、十一面観音懸仏（当館）、聖観音懸仏（当館）、◎山王十社懸仏（当館）、蔵王権現鏡像（当館）、◎阿弥陀如來鏡像（当館）、◎十二尊鏡像（細見美術財団）

【考古】◎金峯山経塚出土　鍍銀経箱（金峯神社）、銅経筒　<平治元年銘>（当館）、◎三重・朝熊山経ヶ峯経塚出土品　銅経筒・銅鏡（金剛証寺）、飛鳥文陶製外筒、◎伝福岡県出土　銅経筒【写真】・滑石外筒、◎伝福岡県出土経塚遺物（以上当館）



木造阿弥陀如來立像



毗尼母経巻第五
〈部分〉（当館）

【工芸】銅銭弘倣八万四千塔（当館）、金銅宝篋印塔（当館）、金銅蓮台形舍利容器（当館）、◎金銅火焰宝珠形舍利容器（海龍王寺）、◎金銅透彫舍利容器及内容器（西大寺）、◎黒漆密観珠嵌装舍利厨子（般若寺）、四方殿舍利厨子（能満院）、◎黒漆経箱（中尊寺）、◎金銅宝相華文透彫経筒（万徳寺）、散蓮華蝶文螺鈿卓（当館）、◎銅草花文磬（峰定寺）、黒漆磬架（当館）、◎金銅迦陵頻伽文華鬘（中尊寺金色院）、◎金銅種子華鬘（当館）【写真】、金銅種子華鬘（当館）、◎金銅蓮華文透彫華鬘（神照寺）、金銅輪宝羯磨文透彫幡、竹製花籠（性海寺）、◎紙胎彩色華籠（万徳寺）、金銅宝相華文透彫華籠（神照寺）、◎金山寺香炉（当館）、金銅柄香炉（高山寺）、金銅塔碗形合子、王子形水瓶（当館）、仙蓋型水瓶（当館）、◎金銅密教法具（厳島神社）、◎金銅独鈷鈴、◎金銅三鈷鈴、◎金銅宝珠鈴、◎金銅五鈷鈴（当館）、金銅宝塔鈴（当館）、◎金銅五鈷四天王鈴（弥谷寺）、金銅種子五鈷鈴（当館）、



銅経筒
〈平治元年銘〉
（当館）

平成8年度をふりかえる

普及室長 西山 厚

平成8年度が終わりました。いろいろなことがありました。主な出来事をふりかえてみることにしましょう。

1 春季特別展「東アジアの仏たち」 (平成8年4月27日～6月2日 本館)

わが国の仏教美術の展開に大きな影響を与えた中国と韓国の仏教美術のうち、特に仏の造形に焦点をあてて構成した特別展で、仏教美術を中心に展示活動を行なっている当館でもあまり展示されることのない作品が集まりました。日本のものはほとんどありませんでしたが、中国の特色、韓国の特色、そしていずれとも異なるわが国の特色がよくわかり、好評でした。

2 親と子のギャラリー「ぶつぞう入門」 (平成8年8月2日～8月25日 本館)

「夏休みには、博物館へ行こう！ 博物館へ行って、ぶつぞう博士になろう！」のキャッチコピー。仏像の螺髪をパンチパーマと表現するなど、わかりやすさを前面に出した思い切った企画でした。担当した松浦正昭 仏教美術研究室長の個性がよくでたカタログの文章や展示室での解説は評判でした。ただ、対象が今も信仰を受けている仏像であることもあって、その表現等については賛否両論があり、子供を対象とする企画の難しさをあらためて感じました。

3 第48回「正倉院展」 (平成8年10月26日～11月11日 新館)

恒例の正倉院展。今回も大勢の方々に御覧になっていただきました。琵琶や阮咸などの楽器、大仏開眼会に参集した僧侶の名簿。最も華やかなものと最も地味なものに関心が集まりました。毎年のことながら、会場内の大混雑が悩みの種。陳列場所・陳列方法・陳列台の高さ・題箋の内容など、工夫し改善し苦勞しているのですが、苦情やお叱りが絶えません。第2新館のオープンで、混雑は多少緩和される筈ですが…。

4 夜間開館が始まる。

4月から11月までの毎週金曜は、午後8時まで開館することになりました。夏から秋にかけては、周辺の名所（東大寺南大門、興福寺五重塔、春日大社一の鳥居、浮見堂など）がライトアップされています。金曜のアフター5を奈良公園で過ごしてみるのはいかがでしょうか。正倉院展も金曜の夕方からがお勧めです。

5 講座会場が転々

現在、工事の関係で当館には講堂がありません。このため講座の会場は、春季特別展が近鉄奈良歴史教室、正倉院展が奈良県文化会館、「親と子の文化財教室」が奈良学セミナーハウス、新春講座が新館の新展示室と、あちこちを転々としました。正倉院展では講座日を初めて1日に絞り、3講座を行ないました。過密だったかなと心配しましたが、皆さん最後までとても熱心でした。特に木戸敏郎先生（元国立劇場演出室長）の楽器のお話は面白く、終了後も質問攻めでした。

6 ホームページ開設

猫も杓子もインターネットの時代。当館も8月からホームページを開設しました。まだまだ十分な内容ではありませんが、奈良国立博物館の情報を世界へ向けて発信し続けています。一度、のぞいてみてください。

7 スタッフの交替

平成8年度には、嶋崎和男次長、内藤榮主任研究官、宮崎幹子さん、塩川邦弘庶務係長、中谷利朗さんの5人が当館のスタッフに加わりました。宮崎さんは当館で初めての女性研究員です。

平成8年度末で当館をおやめになったのは7人。河原由雄学芸課長と森田勝久総衛士長は定年退職。警備の橋本武夫さん、上村好英さん、荒井加代子さんは退職。浅井久敬経理主任と廣岡良二用度主任は転勤です。河原さんは32年にわたり絵画部門を担当、平成5年からは学芸課長として活躍されました。平成4年には長年の功績が認められ、奈良市文化功労賞を受けています。森田さんは31年にわたり当館の警備を担当し、当館の信頼を守り続けて下さいました。

3月20日、学芸課主任研究官の前島己基さんが亡くなりました。まだ49歳でした。前島さんは島根県の出身で考古学専攻。数々の発掘調査で成果をあげ、昭和55年に当館へ。以来考古部門の担当者として、また当館と韓国との学術交流の窓口として尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

8 工事完成まじか。

ようやくフェンスの西半分がとれて、完成まじかの第2新館や地下通路の様子が見えるようになりました。第2新館オープンまであと1年。奈良国立博物館は変わります。お楽しみに。

9 その他

奈良国立博物館、東京国立博物館、京都国立博物館。この国立3館で、入館者が一番多いのはどこだと思いますか。平成7年度（8年度は未集計）は、なんと奈良国立博物館が一番でした！



花束を受ける河原学芸課長(3月26日)

親と子の文化財教室

平成9年度「飛鳥時代の歴史と美術（第2クール）」

主催：奈良国立博物館 後援：奈良県教育委員会

飛鳥時代とは飛鳥地方に都があった時代のこと。しかし、いつからいつまでを言うのかについては、いろいろな説があります。ここでは、仏教が渡来した6世紀の中ごろから、都が奈良（平城京）に移る8世紀の初めまでの時期を言うことにします。

この時代の文化の中心は仏教です。6世紀の終わりには飛鳥寺が建立され、さらに7世紀に入ると、聖徳太子の保護もあって、仏教はとても盛んになります。当時のすぐれた仏像などは今も法隆寺に数多く伝えられています。

この「親と子の文化財教室」では、昨年まで、飛鳥→奈良→平安→鎌倉時代の歴史と美術について時代順に勉強してきました。しかし毎年、受講者が替り、講師も替り、もう一度飛鳥時代からやってほしいという要望が出るようになりました。

皆様の御要望にお応えし、「飛鳥時代の歴史と美術（第2クール）」を始めます！

＜年間予定＞

- 5月10日(土) 「石舞台と飛鳥大仏」(現地見学)
- 6月14日(土) 「飛鳥時代の彫刻」
- 7月12日(土) 「飛鳥時代の工芸品」
- 8月9日(土) 「飛鳥時代の絵画」
- 9月13日(土) 「法隆寺」(現地見学)
- 10月11日(土) 「聖徳太子はどんな字を書いたのか」
- 11月8日(土) 「飛鳥時代の寺院」
- 12月13日(土) 「飛鳥時代が今日に語るもの」

＜対象＞ 小学5・6年生、中学生および保護者等。児童・生徒のみの参加および定員に余裕のある場合は高校生の参加も可。

＜時間＞ 午前10時から12時。

＜場所＞ 奈良国立博物館地下ホール。現地見学もあります。

＜定員＞ 100名（先着順）。

＜参加費＞ 無料（見学科金が必要な場合があります。）

＜講師＞ 奈良国立博物館研究員および学習普及専門官

＜申込方法＞ 往復はがき（または電話）で、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者等の氏名・参加する月日を記入のうえ、

〒630 奈良市登大路町50 奈良国立博物館 親と子の文化財教室係

☎0742-22-7771までお申し込みください。連続申し込みも可。



夏季講座中止のお知らせ

本年度の夏季講座は、講堂が工事中のため実施いたしません。あしからずご了承ください。

夜間開館のお知らせ

4月1日から11月30日までの金曜日は午後8時まで（入館は午後7時30分まで）開館します。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで（入館は午後4時まで）

金曜日は午後8時まで（入館は午後7時30分まで）

休館日 月曜日（月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌火曜日が休館）

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料（特別展を除く）

特別展		大人	高・大生	小・中生
	一般	830	450	250
	団体	560	250	130

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420	130	70
	団体	210	70	40

（団体は責任者が引率する20名様以上。）

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し返信用封筒（80円切手貼付、宛名明記）を同封して、当館の普及室にお申し込み下さい。

〒630 奈良市登大路町50 電話0742-22-7771 FAX0742-26-7218 テレホンサービス0742-22-3331 奈良国立博物館
ホームページ <URL> <http://www.narahaku.go.jp/>